

議会報告 瑞風

発行人 中林たかし

中林たかし事務所
雲南市加茂町神原 733-4
電兼 FAX 49-6373



大波乱の師走議会

改選後、初となる十二月定例会は12月9日から22日までの会期で開会されました。定例会初日の12月9日、本会議終了後に原市長は体調不良を訴え、医療機関を受診、出雲市内の病院に緊急入院となる波乱の幕開けとなりました。

更に市長不在の定例会もさることながら、12月16日の早朝、市長が入院先の病院で傷害事件を起こし逮捕されるという前代未聞の事態まで発展しました。

その後、12月21日の午後、原市長（代理）から佐藤隆司議長宛に辞職願が提出され受理されました。公職選挙法に基づき議長は選挙管理委員会に通知、これを受けて選挙管理委員会は50日以内に市長選挙を執行することになります。

年末年初は、来年度当初予算の編成、コロナ対策など差し迫った業務が多くあり、行政の停滞や混乱で市民生活に悪影響が出ることがあつてはなりません。

副市長人事など可決

十二月定例会は改選後の初の定例会です。9日の初日には、①副市長に吉山治氏（県職OB）を選任すること、②条例その他、③十二月補正予算などの議案が提出されました。

副市長の選任は、全議員賛成で可決、同日付で吉山副市長が就任されました。補正予算ほかの議案は提案理由の説明が行われ、各常任委員会に付託されました。15日から付託を受けた常任委員会での質疑を経て、全議案を会最終日に可決しました。

主な十二月補正予算

単位：千円				内 容
主な12月補正事業	補正前	補正額	補正後	
ふるさと納税推進事業	114,138	72,905	187,043	寄付増に伴う経費
雲南市飯南町事務組合負担金(CATV事業)	254,655	1,601,806	1,856,461	FTTH化整備事業負担金
雲南市飯南町事務組合負担金(清掃事業)	1,191,198	20,595	1,211,793	旧加茂町不燃物処理場解体工事
電算総務管理事業	298,290	15,394	313,684	コロナ対策分散勤務用パソコン等
介護給付・訓練等給付事業	1,062,000	13,100	1,075,100	介護給付・訓練等給付増加
有害鳥獣捕獲奨励事業	48,910	9,800	58,710	序格闘数増加による奨励金増
中小企業支援事業補助金	201,400	△148,000	53,400	緊急事態宣言消費活動減退対策
キャッシュレス決済消費喚起支援事業	0	22,800	22,800	キャッシュレス決済喚起のポイント費用等
公立学校情報機器整備事業	0	331,001	331,001	GIGAスクール用端末整備費

十二月定例会の一般質問

10日からは一般質問が行われ、19人の議員中16名が登壇しました。7人の新人議員全員及び元職1人、現職8人が一般質問を行い、それぞれの観点から諸問題、課題について論戦を繰り広げました。開かれた

議会、多様性の観点から活発な議会活動が展開されることが期待します。昨年、議論した「議員のなり手不足」が多少なりとも改善したかもしれません。

議会の新体制スタート

改選後、11月30日に開会された臨時会において正副議長が決まりました。議長には佐藤隆司氏（木次町、59歳）、副議長には矢壁正弘氏（大東町、63歳）が選ばれました。また、各常任委員会の構成は次の通り変更になりました。

常任委員会の構成（◎委員長 ○副委員長）

産業建設 常任委員会	教育民生 常任委員会	総務 常任委員会
◎ 松林孝之 ○ 上代和美 藤原信宏 周藤正志 鶴原能也 安田栄太	◎ 中村辰眞 ○ 足立昭二 矢壁正弘 原祐二 梶谷佳平 多賀法華	◎ 白築俊幸 ○ 中林孝 細田実 宇都宮晃 上代純子 児玉幸久

ホテルは着工、サッカー白紙へ

定例会初日にあった市長施政方針において三刀屋町中心市街地に建設予定のビジネスホテルは令和4年4月着工、令和5年4月開業で株共立メンテナンスと合意したと発表がありました。

一方、前速水市長時代に松江シティFCから話のあった「松江シティFCユースチーム設立」構想※について、松江シティFCから設立を断念した旨、12月初旬に連絡があったと説明がありました。

施政方針にある①厳しい財政事情、②大型プロジェクトの再検証、等を受け相互認識に相違があったとして松江シティFC

側が断念の判断をされたようです。

受入準備を進めていた大東町の関係者、そして何よりも大東高校への進学準備を進め、将来のサッカー選手を夢見ていた生徒への対応もしっかりと果たさなければなりません。また、サッカー場の整備計画についても十分な議論が必要です。

※松江シティFCユースチーム設立構想Ⅱ松江シティFCは、プロサッカーJリーグ加盟を目指して松江を拠点に活動中のサッカークラブ。その下部組織となるユースチーム（U-18、18歳以下の選手で構成されるチーム）を来年4月、雲南市大東町に立ち上げる予定で準備が進められていました。

中林たかしの一般質問

中林たかしは新市長に対し施政方針を質す一般質問を予定していました。市長が緊急入院のため、あらかじめ準備されていた市長答弁書を副市長が代読する形式となりました。質問相手が不在で核心に迫る議論が出来なかったことが残念です。

問

本市の抱える最大の課題を何と捉え、どう対応していく考えか。

答（副市長）

人口減少への対応、持続可能な地域づくり、健全な行財政運営の3点だ。総合計画、総合戦略を基に市政運営を進める。

問

若者や子育て世代の定着や市外からの流入をどう進める考えか。

答（副市長）

相談窓口の充実を図り、妊娠、出産、子育て、教育と切れ目ない支援を行う。また、育児と仕事が両立できる環境を整備する。

問

相談を充実させても働くところが無かったり活気がなければ若者は出ていく。

答（副市長）

合併協で議論した働く場の確保や産業

振興の考え方は引き継がれており、各種計画に反映されていると理解している。

問

前市政の何を承継し、何を承継しないか、具体的な説明を聞く。

答（副市長）

速水市政で築き上げられた街づくりを土台とし、時代の変化や社会の変化に適切に対応しながら市民に寄り添った市政運営に取り組んでいく。総合計画、総合戦略を基本としつつ現場のニーズを見極め、将来的な財政状況を見ながら判断していく。

問

公約にあった大型プロジェクトについて費用対効果の点で精査することだが、念頭にある具体的なプロジェクトは何か。

答（副市長）

食の幸発信事業とサッカー場について、事業の目的や投資に見合うだけの効果があるかを精査し、最終的な市の方針を定めたい。

問

前溝口知事は三江線の廃止論議の際、路線存続に消極的な態度で非常に残念な思いをした。市長は木次線対策を積極的に進める考えがあるか。

答（副市長）

木次線とトロッコ列車対策について、沿線自治体と関係機関は一体となって対策に取り組んできた。この10月、丸山知事はトロッコ列車に乗車し状況確認された。また、広島県知事とも木次線と芸備線の存続について協議された。今後も知事と沿線自治体の首長が一体となって取り組んでいく考えだ。

問

市長答弁書のキーワードに「現場」と「寄り添う」というのがある。木次線についても現場に出かけ、寄り添う姿勢で取組まれるか。

答（副市長）

そのような理解でよろしいかと思う。

問

J R 西日本はコロナ禍にあつて赤字転落した。先般の米子支社長の会見でも木次線に厳しい見方を示された。市長の木次線存続、活性化に取り組む決意を伺う。

答（副市長）

通勤等の生活交通やツアー造成による観光利用により誘客事業を積極的に進めていく。あわせて、鉄道事業法改正に向けた取組みを県及び沿線自治体と連携を取って進めていく考えだ。

問

鉄道事業法の再改正は必要なこと、是非積極的にかかわってもらいたい。誘客事業の促進という観点からは、トロッコ列車が大きな武器となる。トロッコ列車の後継車両について交渉状況はどうか。

答（副市長）

今年7月に行われた県とJ R 西日本の協議において、現行車両は令和3年度まで運行し、令和4年度以降の運行は難しいとの見解が示された。その後、県選出の国会議員などの協力を得て運行継続の要望活動をつづけたところ、J R 西日本と協議ができる状況になった。代替車両を活用し令和4年度以降の運行、後継車両の整備にむけ協議を進める。

問

澄田知事は県土の均衡ある発展に尽力されたが、一方、財政規律は乱れた。その後着任された溝口知事は、財政健全化に努力された。両知事の財政に対する考え方は両極端と考えるが、市長はどう評価し、そのことを雲南市にどう反映させていく考えか。

答（副市長）

澄田知事は日本経済が好調な時期に大型事業を進められ、一方、溝口知事は人口が減少していく中、緊縮財政に努められた。両知事ともそれぞれの時代に合わせて懸命に取り組まれたものと理解している。そして現在、経済成長が見込めない中にあり、将来を見通した財政運営について危機感

をもつて取り組んでいかなければならないと考える。

問

バブル崩壊以降、日本は未曾有の不景気に見舞われた。そんな中、平成13年ころ島根県は財政支出がピークとなった。日本全国の流れと逆行した財政運営についてどう捉えるか。

答（副市長）

国の財政が厳しくなった中で、島根県は遅れてきた。当時、原市長と私（吉山）は県の財政課に在籍していた。振り返ってみれば危機はあったものの国からの大きな支援があった。先を見るといつまでも続かないということも分かっていた。その頃からもっと財政運営を厳しく考えるべきであったと思う。一方、当時建設された施設が地域の中で生かされていることもあり、決して無駄でもなかった。

問

所信表明によれば令和3年度当初予算は近年に比べて10億円弱減少する見込みとなっている。財政規律は必要だが市民経済や市民生活（コロナ対策や老朽化した学校施設の修繕等）に支障があってはならない。どのように進める考えか。

答（副市長）

本年度進めてきたデジタル防災無線、木次こども園、永井隆記念館など大型普通建設事業がおおむね終了することから減額となる。従つて、来年度予算の縮小が直接的に市民生活に影響を与えることはない。

問

市長、副市長とも県の財政課に在籍されていた経験を雲南市政に反映させてもらいたい。財政バランスについて基本的な考えを伺う。

答（副市長）

近年続いた大型普通建設事業により借金残高が増加、令和5年度以降返済額が5億円程度増加する見込みだ。結果として一般財源を圧迫することになる。将来的に交付税の減額やコロナによる税収

落ち込みなど不透明な状況が続く。限られた財源の中で費用対効果の視点で健全な財政を進めたい。

問

今後、財政指数の悪化は避けられない健全化へのロードマップはどう考えるか。

答（副市長）

正直、厳しい問題だ。今ある姿、本来ある姿を考え市民の皆様を理解して頂く必要がある。

問

身の丈に合った財政というのは理解できるが縮小均衡ばかりでは負のスパイラルを起こすリスクがある。時には財政支出が必要な場面もあるのでは。

答（副市長）

将来を見通した健全な財政運営を基本としながら、必要な事業（交流センターの整備や学校施設、ごみ処理施設など）は進めなければならぬ。守りと攻めの政策を組み合わせていく。

問

均衡ある発展は必要だが、これまで我慢を強いられた地域もある。どう対処するか。

答（副市長）

6町村が持つ多様な資源や市民力を生かし魅力を高め、実情に合った地域づくりを展開しなければならぬ。各地域の主体的な取組を尊重し、市民の皆さんと共に取り組んでいく。

コロナ禍で大変な一年だと思っていた矢先、市役所に大変ショッキングな出来事が起きました。来年は丑年、牛は元来、神様の遣いとして大切にされてきた動物です。来年は神様のご利益にあやかりコロナ退治と平穏な社会になるよう祈念します。また、雲南市の重要な産業である畜産業が一層飛躍し、再来年の和牛能力共進会では優秀な成績となるよう期待します。来年が皆様にとり輝かしい年でありますよう、良いお正月をお迎えください。（たかし）